

リンゴの里から

パキスタン・バルチスタン州の北部地方は標高が高く（州都の Quetta 市が約 1,600m）、この地域では昔からリンゴ、アプリコット、ブドウ等の果樹栽培が盛んで、カレーズや浅井戸等で灌漑されていました。なかでもリンゴは収益性の高い換金作物として、近年井戸による灌漑が急速に広まり、作付面積が増加しています。しかし年間雨量が 200~300mm と少ないため、地下水の使用量が供給量に追いつかず、灌漑面積の増加に伴う地下水位の低下が深刻な問題となってきています。

バルチスタン州のリンゴ栽培に関して非常に特徴的で興味深いのは、「コントラクター」と呼ばれる中間業者の存在と流通の経路です。「コントラクター」とは農家と契約してリンゴを買い取り、マーケットに売る中間業者のことです。花が咲く頃あるいは実が付き始める頃に畑ごと買い取る青田買いをして、その後は業者が施肥、農薬散布、収穫まで一切の世話をする、という制度です。「契約」は単年度で、コントラクターは長期的展望なしに目先の収量を上げようとしますから、長い目で見れば農家にとってはあまり利益にならないのですが、農協がなく個々の農家が栽培から市場への出荷までやるのが大変だったり、また特に比較的小規模な農家ではとっとり早く現金収入を得たいという背景があるようです。ある報告によれば、Quetta 周辺地区の農家の約 8 割がコントラクターに売却しているそうです。また、正確なデータはありませんが、不適切な農薬や肥料の使用が作業者の健康や土壌、地下水等の環境汚染を引き起こしているのでは？ という指摘もされています。

次に流通経路ですが、収穫されたリンゴの大半は一旦カラチやラホール等他州の大都市に運ばれ、需要に応じて少しずつバルチスタンに戻されます。これはバルチスタン州には十分な保冷貯蔵施設がないことや Quetta の市場が小さいためですが、これもコントラクターの介在を許す大きな理由の一つとなっています。

品種としてはレッド・デリシャス、ゴールデン・デリシャス等のほか加工用（ジュース、ジャム等）の品種もあります。パキスタンでは普通、野菜や果物は品質に関係なく 1 Kg いくらかで売られていますが、レッド・デリシャスは他のリンゴより値段が高く、これは数少ない例外の一つです。（もっともカラチ等の大都市の高級スーパーマーケットでは、高品質の野菜等が高い値段で売られているようです）

(Quetta にて・湖東)



リンゴの収穫風景



Apple Show に出展されたリンゴ